

令和5年度の学校教育目標に対する学校評価を以下のように進めた。 ①保護者アンケート（12月に実施） ③児童アンケート（12月に実施）

<b>学校教育目標</b>	かしこく ◎あたたかく つよく	進んで取り組む子 仲良く助け合う子 健康でたくましい子	深く考え豊かに表現する子 全ての命を大切に 最後までやりぬく子	<b>重点目標</b> あたたかく 仲良く助け合う子 全ての命を大切に する子
---------------	-----------------------	-----------------------------------	---------------------------------------	--

校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価			
かしこく	よさ、可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校	①基礎的・基本的な確かな学力の定着	ユニバーサルデザインの授業の推進	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	—	○	児童の評価は○である。保護者の評価が◎である。一部の児童が授業についてこられていない可能性がある。	ICTを活用し、UDの視点である「焦点化・視覚化・共有化」を推進し、更に「分かる・できる・楽しい」授業をめざす。	【学校教育目標（かしこく）に関して】 「次年度から活用しようとしている学習アプリは、様々な教科に活用できるのか。もしできるのであれば、個別のレベルに対応できてよい。」との意見があった。 →様々な活用方法を3学期からお試しで行っており、次年度の活用にかしたい。
			問題解決的な学習の重視		—	○	児童の評価は○である。保護者の評価が◎である。教科や領域によって児童に問題意識をもたせるような授業構成にできていない部分があると考えられる。		
			基礎学力の定着		—	○	児童及び保護者の評価は○である。児童が「分からない」と感じる部分まで戻っての指導が不足していると考えられる。	算数の補習教室を継続し、学習アプリを効果的に活用し、基礎学力の定着を図る。	
			二小スタンダードに基づく学習習慣の確立		—	◎	児童及び保護者の評価は◎であった。	今後も継続して指導していく。	
		②夢の素材を育むキャリア教育	二松タイムを中心としたキャリア教育の充実 自己肯定感を育てる指導の充実		—	○	80%はこえているが、他の項目と比較すると課題を感じている児童・保護者が多い。	次年度は、4年生の総合で「キャリア教育」の単元を新設する。	
あたたかく	健康な心身と豊かな情操・心情を育む学校	①心を育てる	体罰の根絶	児童及び保護者の評価は◎であった。	—	◎	児童に実施した体罰調査では該当はなく、保護者の評価も◎であった。	体罰防止研修の徹底と丁寧な聞き取りを継続していく。	【学校教育目標（あたたかく）に関して】 「いじめの数が多いと感じた。」との意見があった。 →報告数に関しては、軽微なものや解決済みのものも含んでいることを伝えた。「フルインクルーシブに関して、どの子どもという視点があると良い。」との意見があった。 →今、国立市が定義しようとしているものであり、二小もそれを受けて作成していく。 「体罰の研修内容について、具体的な事例を活用した研修でよい。」との意見があった。 →今後も定期的に研修を進めていく。
			いじめの根絶		—	◎	児童及び保護者の評価も◎であった。	いじめの早期発見、未然防止教育に努める。	
			二小スタンダードに基づく生活指導の徹底		—	◎	児童の評価は○である。保護者の評価は◎である	看護当番の見守りを徹底する。朝会での看護当番の話により二小スタンダードに基づいたものにしていく。	
			豊かな環境を活用した心を育む教育活動の推進		—	◎	児童及び保護者の評価は◎であった。	今後も活用、維持に努める。	
		②合理的な配慮に基づくインクルーシブ教育の推進	校内体制の充実 合理的な配慮に基づく教育を推進		—	◎	校内委員会を中心に情報共有と適した対応ができていたため	校内での情報共有、また保護者への啓発を進めていく。	
つよく	健康な心身と豊かな情操・心情を育む学校	①体力づくり健康づくり	体育・健康に関する指導の充実	—	◎	保護者、3年生以上の評価は◎、1、2年生の評価は○であった。	委員会等で健康の大切さ周知する。	【ICT活用に関して】 「ICT教育は、制限のないところでも子供自身が考えて使えるようにすることも大切だが、制限がないことにも不安がある。」「保護者への教育も必要なのではないか。」との意見があった。 →全体に指導する事、子供たちの中でルールを決めて守れるようにする事など検討中である。	
			保護者、地域と連携した安全教育の推進	—	◎	児童及び保護者の評価も◎であった。	月に一度の安全指導と避難訓練を見直し、安全教育を徹底する。		
			保護者と連携した情報モラル教育		○	児童及び保護者の評価は○である。	保護者への理解が図られ、家庭の協力が得られるようになった。		
			学校便りやホームページを活用した情報発信		◎	保護者の評価は◎である。	更に充実を図り、今後とも活用、維持に努める。		